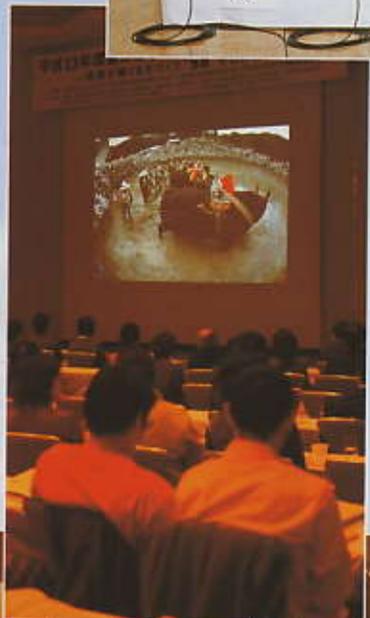


平成13年度

# 豊かなふるさとづくり全国フォーラム

— 笑顔が輝くまちづくり 千葉からの発信 —





個性豊かなふるさとづくりに取り組み、今年度のふるさとづくり賞に応募して入賞した団体の表彰式と全国でふるさとづくり、地域づくりに取り組んでいる団体が交流を深める「豊かなふるさとづくり全国フォーラム―笑顔が輝くまちづくり 千葉からの発信」が去る十一月十七・十八日の両日、千葉市美浜区の「幕張プリンスホテル」で開かれた。

内閣総理大臣賞には、「えりも砂漠」と言われた荒廃した大地を、住民、漁民、行政が協力して五十年にわたる緑化活動を行い、緑豊かな地に変えた北海道の「えりも岬の緑を守る会」(集団の部)、「わがむらは美しく」を町の基本方針に掲げ、町全体を自然公園化しようと取り組んでいる愛媛県の城川町(市町村の部)、健常者と障害者がともに働く場づくりをするとともに、社員が積極的に地域と関わり合うようにしている大分県のホンダ太陽株式会社(企業の部)がそれぞれ受賞した。



内閣官房長官賞には、水質の汚濁が深刻化している霞ヶ浦の再生をめざして、霞ヶ浦だけではなく、その源流を含めて、流域全体の浄化活動や環境保全活動をしている茨城県のNPO法人アサザ基金（集団の部）、市民や職員が要望に応じて「応急手当講習」「こみの現状」「マジック入門」など二百にのぼる出前講座を実施し、市民と行政との新しい関係を創り出した埼玉県八潮市（市町村の部）、子どもたちに漁業体験をしてもらうことにより、漁業や魚に親しくもらう活動の新潟県能生町漁業協同組合青年部（企業の部）がそれぞれ受賞した。主催者賞には、集団の部で四団体、市町村の部で一団体が、また振興奨励賞には、集団の部三十六団体、市町村の部二団体、企業の部二団体がそれぞれ受賞した。（受賞団体の名簿は五十五頁～五十八頁参照）

表彰式に続き、受賞した団体の活動がスライドで紹介された。午後は内閣総理大臣賞受賞団体の代



ふるさとづくりネットワーク交流会議  
第4分科会「安心して暮らせるまちづくり」



表も登壇して、「地域資源の発掘、活用したふるさとづくり」と題したシンポジウムが行なわれた。

引き続き行なわれた「交流のつどい」では、尺八、大正琴などの地元千葉県の郷土芸能団体による演奏も行われ、交流を盛り上げた。

翌日の交流会議では、学社融合の取り組みの先進例として全国的にも有名な習志野市秋津小学校を会場にしての「学社融合のまちづくり」をはじめとして「若者が参加するまちづくり」「地域通貨を考える」など六分科会が開催された。

なお、この全国フォーラムの開催にあたっては、千葉県内のNPO団体など十一団体、千葉市、千葉県新生活運動推進協議会が準備会を結成し、一年間にわたってフォーラムの企画にあたり、当日の運営にも中心的な役割を果たした。

※平成十四年度ふるさとづくり賞については、今年度と同様、四月から六月中に募集を行い、全国フォーラムは来年十一月に静岡県三島市で開催される予定（応募要項は次号掲載予定）。

※シンポジウム及び分科会の概要は五十三頁〜五十八頁に掲載。